



JAPAN AIRLINES



使い捨てプラスチックの削減について

日本航空株式会社 ESG推進部 環境推進グループ 池田華子

2025/10/10

使い捨てプラスチック削減目標

➤ 中期経営計画の中で、CO2削減、使い捨てプラスチック削減を経営目標に定めている。

FY2025 目標値

安全・安心 	安全	航空事故・重大インシデント：0件 (中期期間を通じて)
	CX(安心)	航空利用に加え、日常・ライフステージでも世界トップレベルの顧客体験を実現 NPS*1：+4.0pt (フルサービスキャリア国際線・国内線)
サステナビリティ 	環境	CO ₂ 削減 総排出量：921万トン*2未満 (FY2019実績) 使い捨てプラスチック削減*3 客室・ラウンジ：新規石油由来 全廃 貨物・空港：環境配慮素材*4配合へ100%変更
	地域社会	地域活性化 国内の旅客*5・貨物輸送量：FY2019対比 +10%
	人	DEI推進 グループ内女性管理職*6 比率：30% 継続して多様な人財の活躍を推進
財務 	EBITマージン (売上高利益率)	10% 以上を達成
	ROIC*7 (投資利益率)	9% を達成
	EPS (1株当たり純利益)	¥290 レベル

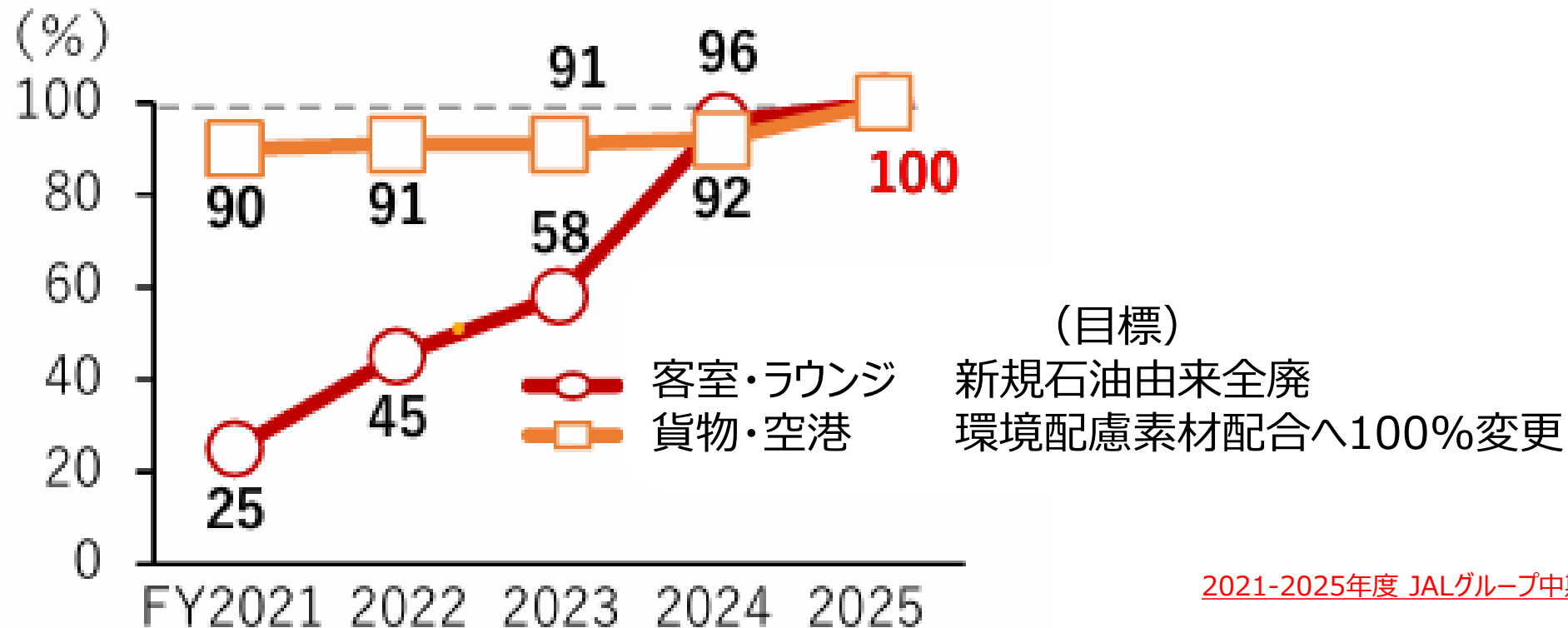
使い捨てプラスチック削減*2
客室・ラウンジ：新規石油由来全廃
貨物・空港：環境配慮素材配合*3へ100%変更

*2 お客さまに提供する使い捨てプラスチックを指す

*3 バイオマス・再生プラ・認証紙など、新規石油由来の原料不使用もしくは低減したアイテム

使い捨てプラスチック削減の推移

➤ 使い捨てプラスチック削減の進捗は、目標達成に向けて以下のように推移している。



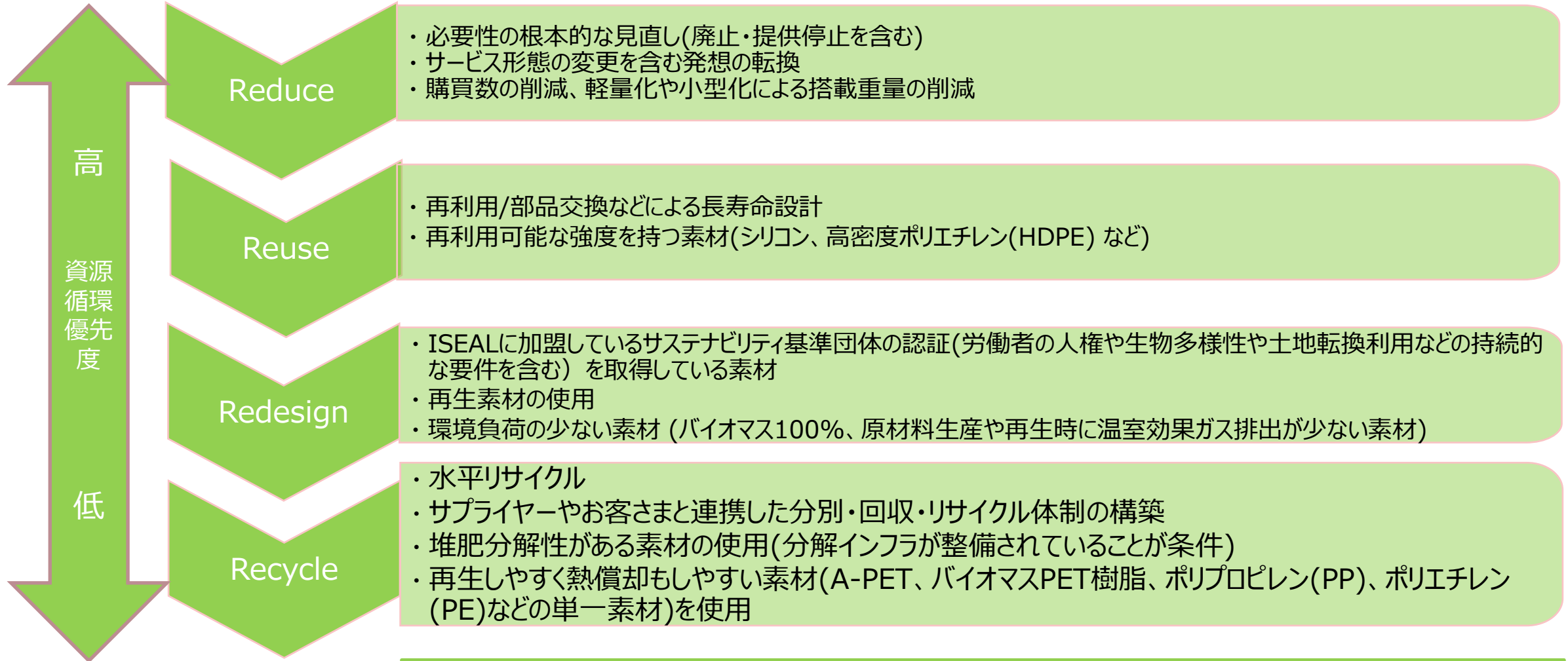
2021-2025年度 JALグループ中期経営計画 ローリングプラン2025

課題

- ◆ 重量とのバランス
特に航空機搭載物は、CO2排出を抑えるため重量が増える代替素材をできるだけ避ける必要がある（トレードオフ）
- ◆ 代替素材の品質（耐久性など）
- ◆ リサイクルの難しさ（外貨ゴミは焼却が求められる）

使い捨てプラスチック削減の優先順位

➤ 3 R(Reduce/Reuse/Recycle)+ 1 R(Redesign)のプロセスで使い捨てプラスチックを削減に取り組んでいる。



※R&Dリソースを割り当て、サプライヤーとランジションプログラムを実施する

使い捨てプラスチック削減 3 R + 1 Rの取り組み事例

Reduce



Redesign



Reuse



Recycle



限られた資源の有効利用 | サステナビリティ | JAL企業サイト

使い捨てプラスチック削減 3R+1Rの取り組み事例

【客室・ラウンジ】新規石油由来プラスチック全廃
FY24：96%

Redesign

Recycle

国際的な認証を取得した紙製の蓋に変更、
国内路線の一部では紙コップのリサイクルを実施

Reduce

Redesign

Reuse

Redesign

再生ペットボトルを
原料とした容器

バイオマス100%の食器
洗浄の上再利用が可能
蓋は100%再生ペットボトル製

Redesign

国際的な認証を
取得した紙製の容器・
トレーマット

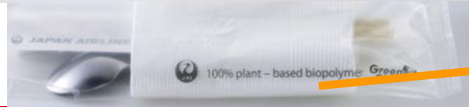
Redesign

Recycle

100%再生
ペットボトル

Redesign

バイオマス100%のカトラリー包装材



【空港・貨物】環境配慮素材配合へ100%変更
FY24実績：92%

Redesign

手ぶらでおでかけサービスの
荷物カバービニール袋を
バイオマス50%へ

Recycle

貨物梱包ビニールシートへの
リサイクル素材配合



40年前から境界杭などへ
リサイクル

限られた資源の有効利用 | サステナビリティ | JAL企業サイト

使い捨てプラスチック削減に関するコミュニケーション

- お客様に機内ビデオで取り組みを紹介している。

【機内ビデオ】



[かくれナビリティ](#)